

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和7年1月1日～令和7年11月16日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 7 年	350	48	5	168	163	384
令 和 6 年	311	48	3	139	148	338
前 年 同 期 比	39	0	2	29	15	46

2 山域別発生状況

区 分		件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	68	19.4%	10	0	34	30	74
	後立山	87	24.9%	8	1	38	56	103
	その他	56	16.0%	1	0	36	25	62
計		211	60.3%	19	1	108	111	239
中央アルプス		24	6.9%	6	1	10	9	26
南アルプス		11	3.1%	0	2	8	1	11
八ヶ岳連峰		36	10.3%	5	0	19	13	37
その他の山岳		68	19.4%	18	1	23	29	71
計		350		48	5	168	163	384

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	94	26.9%	28	0	68	0	96
転 倒	87	24.9%	1	0	86	0	87
病 気	28	8.0%	8	0	0	20	28
道 迷 い	33	9.4%	0	0	0	50	50
落 石	7	2.0%	0	0	7	0	7
雪 崩	2	0.6%	1	0	1	1	3
落 雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	57	16.3%	2	0	0	59	61
不明・他	42	12.0%	8	5	6	33	52
計	350		48	5	168	163	384

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
1 9 歳以下	0	0	0	7	7	46 17.2%	0	0	1	0	1	18 15.4%	8	64 16.7%
2 0 代	1	0	4	18	23		0	0	1	5	6		29	
3 0 代	4	1	4	7	16		0	0	3	8	11		27	
4 0 代	5	1	13	14	33	86 32.2%	1	0	16	3	20	46 39.3%	53	132 34.4%
5 0 代	7	0	22	24	53	135	1	0	19	6	30	53	98	188
6 0 代	9	2	31	26	68	50.6%	0	0	22	8	30	45.3%	98	188
7 0 以上	20	1	18	28	67		0	0	14	9	23		90	49.0%
計	46	5	92	124	267		2	0	76	39	117		384	
比 率	69.5%						30.5%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（11/10～11/16）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
11月16日	東筑摩郡生坂村 京ヶ倉	男	57	負傷	滑落	2人パーティで京ヶ倉山頂から下山中、バランスを崩し、滑落、負傷

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、**1件**の山岳遭難が発生しました。

県内の中低山は晩秋となり、山域によっては積雪によりルートが凍結しているほか、落葉で登山道が不明瞭になっています。

そのため、「踏み跡かな?」という箇所を漫然と歩いていると、思わぬ方向に迷い込んでしまうため、登山アプリや地図などで、慎重に確認をすることが重要です。

これからの時期は、グリーンシーズンと比べると登山者は非常に少なくなります。

「他の登山者について行こう」
「困ったら、他の登山者に道をたずねよう」
「雪に踏み跡があるだろう」

ということが、できない可能性があります。

警察では行方不明者捜索の場合に、目撃者（同日程で登山をされた方）を捜しますが、登山者が少ない山域では、目撃者が全くいない場合もあります。

単独登山の場合は、遭難者が「会社に出勤してこない」などの届出が、往々にしてあります。

行方不明遭難は、捜索の長期化などにより、家族に大きな精神的負担を掛けるだけでなく、一家の大黒柱が遭難したとなれば、収入が得られなくなり、経済的にも大きな負担となります。

既に、山は厳しい自然環境となっています。同じルートでも難易度、体力度が格段に上がりますので、慎重な計画と入念な準備をお願いします。

【長野県で登山を計画している方へ!】

長野県の各山域は、本格的な冬山シーズンに移行し、標高の高い山域では積雪があります。冬山登山装備は『MUST(マスト)装備』です。

アイゼン、ピッケル、ビーコンのほか、服装や靴、手袋などは、冬山に対応したものを携行してください。

冬山は、装備品一つで生死を分ける場合がありますので、準備段階から慎重に!